

株式会社ウイング

さくらノート和歌山のご紹介

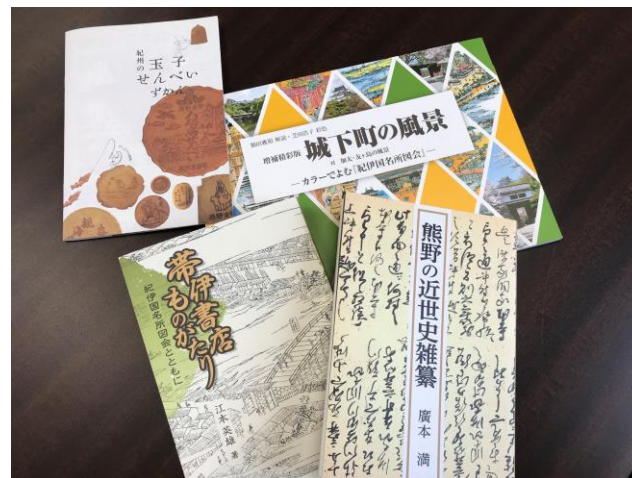


弊社紹介



- 地域にねざした印刷会社として40年の歩み
- 本づくり、広報支援に強み

創業	1972年11月	設立	1981年6月
資本金	2,000万円		
代表者	代表取締役 松下 忠		
社員数	25名		
事業内容	企画、編集、デザイン、ライティング、撮影、 翻訳 広報ツール制作 各種印刷物の制作		
主要取引先	和歌山県、和歌山市、県内自治体 県内や大阪、東京の国・公・私立大学 他		
ISO9001:2015認証取得	(本社・本社工場・製本仕上工場)		

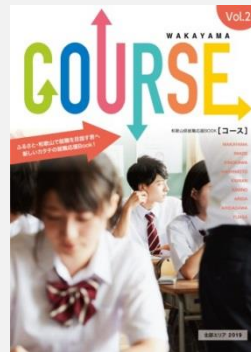


自社発行物

弊社は地域社会への貢献を理念のひとつとし、地域の情報誌を発行しています。

【COURSE和歌山】

和歌山での就職を希望する高校生に地元の輝いている企業を紹介する冊子。



2018年創刊

2021年南部エリア版 2100冊配布

2021年北部エリア版 3400冊配布

◎ 和歌山県下の高校生約2万1千人に届けました。

◎ 掲載企業数はのべ220社

【ほうぼわかやま】

「ふるさと再発見」を合言葉に、和歌山の歴史や文化を伝える地域情報誌。広告を掲載せず、自費出版で10年以上発行してきました。



● 配布：県の公的機関、和歌山市内の郵便局、コミュニティセンターなど

● 部数：10,000部

和歌山市で学ぶ、中学生・高校生に配布しています

内容

- 地元で働く人にクローズアップした記事
- やりがい、充足感、苦勞、成功体験などをわかりやすく
- キャリア教育や郷土を知る教材に

教育としてのメリット

- 働くことについて早くから、徐々に学べる
- 子どもたちの職業観の育成

企業・地域としてのメリット

- ◆ 地元企業の情報を子どもと家族に伝える
 - 県内の企業を身近に感じてもらう
 - 若者の県外への流出を抑制

持続可能な地域づくりにつなげます



わかやま新報、ニュース和歌山、WBS和歌山放送 などに取り上げていただきました！

（日刊）わかやま新報

（平成30年7月19日第2066号印刷部印）

地元で働く人、紹介

ウイング「さくらノート和歌山」創刊



「さくらノート」を手記に松平代高（後列右）と編集人の宇治田さん（後列左から2人目）と編集チームの藤さん（前ウイング提供）

1月28日 火曜日
2020年（令和2年）第2066号
（日曜・祝日・休日翌日休刊）

発行所 株式会社和歌山新報社
〒640-8502 和歌山市東豊中4番地 和歌山中後ビル4号
電話 073-433-4111（代表） E-mail: info@wakayama-shinpo.jp
FAX 073-433-5440 E-mail: shupo@wakayama-shinpo.jp
編集局住所 〒640-8502 和歌山市東豊中4番地 和歌山中後ビル4号
編集局電話 073-433-4111 E-mail: edit@wakayama-shinpo.jp
FAX 073-433-4111 E-mail: edit@wakayama-shinpo.jp
印刷局住所 〒640-8502 和歌山市東豊中4番地 和歌山中後ビル4号
印刷局電話 073-433-4111 E-mail: print@wakayama-shinpo.jp
FAX 073-433-4111 E-mail: print@wakayama-shinpo.jp

「さくらノート」は、和歌山県内各地で働く人々の声や、地域の魅力を伝えるための雑誌です。創刊号は1月28日（火曜日）に発行されます。編集長は松平代高、編集人は宇治田さんです。編集チームには藤さんも参加しています。

「さくらノート」は、和歌山県内各地で働く人々の声や、地域の魅力を伝えるための雑誌です。創刊号は1月28日（火曜日）に発行されます。編集長は松平代高、編集人は宇治田さんです。編集チームには藤さんも参加しています。

ニュース和歌山 2020年（令和2年）2月1日 土曜日

将来の自分思い描いて 「さくらノート」創刊



和歌山で働く人の声を、地域で働く人たちに通じ、中高生に地元への愛着を感じてもらおうと「さくらノート和歌山」を12月、和歌山市の印刷会社「さくらノート」は2017年に石川県で生まれ、発行してきたウイングが「地域社会と学校を結びつけ地域の振興を目指す」との指針を決めた。創刊号では、医師や警察官、営業マン、介護福祉士ら12人が仕事

選別の経緯や仕事の内容、思いを語っている。「なるべく若い人につら」とか「失敗談も話して頂きたい」とか、来に生きるかを伝えたいと思いが詰まっています。編集長は宇治田健志さん。このほか「なるにはシリウス」と題して司法書士の

仕事内容となり方を紹介本。なりたい自分をイメージし、和歌山での就職につなげるか、出先行ってもUターンして働くことに一助になればと望んでいる。B5判、28ページ、ウイング版は「さくらノート和歌山」で検閲。ウイング073-433-5700。

「郷土愛のキャリア教育」



Wbs和歌山放送「WA!ERA」に出演

誌面紹介

That's/
天職
【てんしやく】

建設現場監督

現場をスムーズに回す役割

建設の現場監督の仕事は、工事が問題なく進むように指示し、チェックアップしていく。毎日現場に足を運び、実際に作業する施工業者の職人さんと打ち合わせをして、工事の進行状況や安全面、作業負担などを確認します。「監督」と言っても、最初の頃は分からないことが多く、職人さんに教えてもらっていたという感じでした。それでも努力して知識を蓄え、だんだんと認めてもらえるようになっていって、現場がスムーズに回り始めます。より大きな現場を管理できるようになることが、今後の目標です。

この仕事の喜びを感じるのには、何となくでも建物完成し、お客様から感謝をいただける時です。そしてその完成した建物は、この街に残るようになる。自分が携わった仕事の成果が目に見えることも、この仕事の大きな魅力だと思います。

年上へ交じってサッカー

学生時代は部活が生活の中心で、小学生の時からずっとサッカーばかりしていました。父が建設関係の仕事をしていたので、何となく同じような仕事に就くのかという思いはありましたが、あまり具体的な考えてはなかったです。工業高校に進学したものの、気持ちはサッカー一筋でした。

小さい頃から少年サッカークラブに入っていたので、年上の人に交じってボールを蹴ることが多かったんです。先輩や大人の人からかわいがってもらったことが、イメージが強いですが、建設現場でもこのチームなので、子どもの頃からのイメージがかわっていき、経験は生かされていると思います。最近では輩に指導することが増えましたが、自分がかかわることができるようになり、恐ろしくチャレンジできる雰囲気づくりをしていきたいですね。

この街に残る建物をつくる
建設現場はひとつのチーム

普通科出身でも大丈夫

私は高校、大学と工業系の学校を出しましたが、やる気さえあれば、知識や技術はあつからでも身に付けられるものです。実際、普通科出身の社員もがんばっています。一人前として認められるには少し時間がかかりますが、建設現場はチームで取り組む仕事なので、みんなで助け合いながら、成長していきける環境だと思います。

株式会社 小池組
〒640-8154 和歌山市六番丁26番地
TEL:073-422-2165
URL <http://koikegumi.net/>
■代表者 取締役 小池 康之
■設立 明治41年
■従業員数 62人
■土木工全般、建築工事全般、測量業
建築設計業、宅地建物取引業。

取材協力



株式会社 小池組
建築部

種治 勇基 (33歳)
たわじ ゆうき

出身校：和歌山市立西中学校、和歌山県立和歌山工業高等学校

That's/
天職
【てんしやく】

金融営業
法人営業

親よりも年上の人と

企業を訪問して融資や預金などのサービスを提供するために、加えてお客様の問題解決のためにコンサルティングを行う、経営を支援するのが主な仕事です。そのため、話をする相手は経営者、自分の親よりも年上の人と交渉することになります。時には「自分が担当しているのだから、勝手に決めてもらっていい人たちがからかってくる」といふことがよくあります。この状況は興味を失ってしまいがちですが、自分自身で自分の成長につながる警戒心を捨てて話を聞いてみます。

自分自身でないとと思うのは、伝える力。仮に同じ知識量があったとしても、先輩方はそれぞれ相手に届きやすい話し方を持っています。さらに、思いがけない質問をされたとしても堂々と対応し、あとから「実は焦っていた」と聞いて驚かすことも。私も最初は自分の伝え方を確立して、必要な情報をいっつも届けられるように努めていました。

人と話すのは好き

小学生の頃から人と話すのが好きで、数学にも強いほうでした。そういう意味では、この仕事には向いているのかもしれない。地元愛も強いので、和歌山で働きたいという気持ちでいます。生れ育った土地には自然と愛着がわくものですね。ドライブが好きなので、休日には地元のような場所へ出かけています。

金融の仕事では、見たこともないようなケタの金額や、多くの人のプライベートを扱います。そのため、すべてに精進が求められる。それがプレッシャーのかかることですが、また、それらすべてはお客様が抱えている。だからこそ、君が気に入ったかお願ひする(と)言われたい(と)ならならぬ(と)思っています。そのためにもいろいろ勉強して、総合的な能力を高めていければと思っています。

勉強はあとからしたくなる

学生の頃にはそんなことはまったく思いませんでした。今はもっと勉強をしておけばよかったと感じています。あとになって考えると、学校に行けばいいという環境は貴重なものでした。社会人になってからは、強く望んで行動しないとなかなか勉強はできません。あまり「やらされている」と思わずに、積極的に取り組んでもらえればと思います。



株式会社 紀陽銀行
営業課

上野 滉一郎 (23歳)
うえの こういちろう

出身校：和歌山市立祝の川中学校、和歌山県立和歌山高等学校

株式会社 紀陽銀行
〒640-8656 和歌山市本町1丁目35番地
TEL 073-423-9111
URL <https://www.kiyobank.co.jp/>

■代表者 取締役 取締役 松岡 靖之
■設立 明治28年
■従業員数 2,191人(2020年3月末)
※出向者を除く
預金、貸出、有価証券投資、内国為替、外国為替、国債等の売買、代理業務、その他。

取材協力

誌面紹介【郷土を知る、教養のページ】

ふるさとの歌 わがやまの万葉①



▲青見皇子の御葬所と第一号碑



▲岩代の浜松が枝を引き結び



和歌山県文化センター
会長 村瀬 憲夫
1946年生まれ。長崎県出身。和歌山県
在。和歌山万葉ネットワーク会長。和歌山
大学地域教育センター長。和歌山大学文学部
国文学科の主任。和歌山大学名誉教授。

旅の思い出

万葉を初体験

和歌山を知ろう

今から1300年ほど前、
郡がまだ大和国(今の奈良県)にあった時代、
海や山の自然美あふれる紀伊国(今の和歌山県)は
都の人々のあこがれの地でした。
現存する日本最古の歌集「万葉集」には、
当時のわかやまを歌った数多くの歌が残されています。
その中のいくつかを温々紹介してまいります。



▼ 瀬田の浦から望む、淡路島の海岸から望む、瀬田島までが見える。



和歌山

誌面紹介

SAKURA * NOTE Vol.4

2021年7月1日発行 発行人：和歌山県 和歌山市 和歌山県立和歌山高等学校 TEL.073-453-9700 FAX.073-453-9522 E-mail: main@w-hp.ac.jp



和歌山

さくらノートは、「郷土愛的キャリア教育」を支援する地元企業・団体様のご協力により、和歌山市の中学・高校生の皆さんに無料でお届けしています。総合学習などで活用したり、家に持ち帰って、ご家族でお読みください。

さくらノートへのご意見、ご感想等をお寄せください▶



さくらノート和歌山WEB版はこちら▶



<https://sakanote.net/area-wakayama/>

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsは「Sustainable Development Goals」の略称で、持続可能な開発目標と訳されます。2015年9月の国連サミットにおいて採択されました。世界共通の17の目標を2030年までに達成します。誰一人取り残さない社会の実現を目指し、経済、社会、環境をめぐる課題に、総合的に取り組むものです。

さくらノート和歌山は、子どもたちに地域で働く先輩の姿や伝統的な文化を紹介し、「質の高い教育」と「住み続けられるまちづくり」に貢献したいという思いで発行しています。その理念が、SDGsの目標と共通する情報誌です。

現在、新型コロナウイルスの影響で世界的に厳しい状況ですが、少しでも地域を盛り上げていきたいと思っています。何卒よろしくお願いたします。

